
リスカ少女

紗羅紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リスカ少女

【Nコード】

N4493D

【作者名】

紗羅紗

【あらすじ】

私の名前はエレナ。私にはみんなには言えない秘密があるの。それはね・・・

私（前書き）

リストカットをしてる女の子の話です。
結構グロイ一面もありますのでご注意を・・・。
登場人物・団体名は架空のものです。

私

私の名前はエレナ。

岩倉エレナ。

みんなはエレって呼ぶの。

私にはね、誰にも言えない秘密があるの。
それはね・・・

どうして・・・？

私がリスカをする理由。

それはね・・・。

親がキツイの。

別に暴力を振るうわけじゃない。

でもね、私に対する期待がキツイの。

正直に苦しい。

辛い。

そう考えると切ってしまう。

そして今も切っている。

月夜に向けて手を翳す。

滴る血が月の光を反射させて綺麗・・・。

「綺麗だな・・・」

そう声が漏れる。

私の中で唯一綺麗なモノ。

それが「血」。

最近じゃ切らないと落ち着かない。

切るときは無意識だからどんどんやってしまう。

私に綺麗な腕が戻る日は来るのかな？？

そんなのは分からない・・・。

「辛いよ・・・」

「次の日の朝」

「あら、エレナ。おはよう。」

「おはよう、お母さん。」

「毎日早いわね。」

「まあね。」

私はいつも6：00に起きる。

というより部屋から出る。

リビングに行くともう朝食が出来ている。

此処最近は夜中に微睡む程度の睡眠しかしていない。

眠れない。

「おはよう。」

「彼方、おはようございます。」

「おはよ、お父さん。」

「おはよう。エレナ、テストの成績またあがったそうじゃないか」

ホラ来た・・・

此がいやなの。

「まあね。」

「父さん、鼻が高いぞ。頑張ってくれよな。」

「分かってるよ。」

「今度、お祝いに食事に行こう。なあ母さん。」

「いいですね。行きましょう。」

「エレナ、欲しいモノを決めておきなさい。」

「え・・・？」

「プレゼントだ。頑張ってくれようにな。」

「分かった。行ってきます。」

お母さんの造った朝食を少し食べ、家を出る。

学校に行く途中の公園で少しのんびりしてから学校へ行くのが日課。

そうじゃないと、学校で壊れるかもしれないから……。

朝

この公園は小さい頃からいつ寄る所・・・。

今の家に引っ越してきた3歳の時から遊んでいた。

小さいときは、お父さんもお母さんも私に大きな期待なんか寄せて無くて、ただ幸せだった。

お父さん達が私に期待を寄せ始めたのは、小学4年生のときからだった。

小4のとき、お父さんの友人の薦めで塾に通い始めた。

塾に入って一ヶ月もしないうちに1回目のテストがあった。

私はそのテストでいきなり満点を取った。

そのときからだった。

期待されるのは。

そのときからずっと・・・。

ずっと・・・。

正直に辛い。

成績が下がって、お父さん達に見放されるのが怖い。

だから、私は文句も言わずつと頑張り続ける。

これからもきつと・・・

ずつと・・・

〓 7 : 2 0 〓

いつものように学校に到着する。

朝練をしている声がグラウンドに響く。

今日は野球部かな？

まだ静かな校舎内。

部室等棟以外に生徒が校内に入るのはいつも私が一番。

何て事はない、一人でのんびりしたいだけ。

教室に鞆を置く。

窓側の一番後ろの席。

窓の外には雀が二羽。

お互いを毛繕いしている。

そんな姿を見て微笑んでみる。

鞆からケータイとカッターを取り出して教室を出る。

私が向かう場所は屋上。

誰もいない屋上で一人微睡む。

これが至福のひととき。

これが出来ない雨の日は正直辛い。

心が・・・。

屋上の扉をそつと開ける。

そこには・・・

朝倉悠人・・・。

屋上の扉を開けるとまぶしい朝日が射し込んできた。
その光の中に誰かがたっていた。

「え・・・・・・・・？」

ビクリして思わず声が漏れる。
いつもは誰もいないのに・・・。
そんなことを考えながら、思わず扉の陰に隠れた。

「ん？？其処にいるのは誰？？」

「・・・・・・・・。」

見つかったらしい。
でも出て良いのかどうか分からない。
声からすると男の子らしい。

「ねえ、怒ってないから出てきなよ。」

その優しい言葉によつて私は扉の陰から出た。
其処に立っていたのは、茶色い髪をした男の子だった。
手にはカッターをもっている。

「おつ・・・・・・・・おはようございます。」

「おはよう。何年生？」

「2年です・・・」

「何だ、先輩じゃん。名前は？」

「岩倉エレナ。あなたは？」

「オレはね、朝倉悠人。ユートって呼んでよ。」

「ユート・・・？」

「そう。エレナで良いでしょ？」

このとき、始めてユートと話した。

今日の朝はずっと話していた。

クラスのこととか、部活のこととか。

彼の名前は朝倉悠人。

1年3組。部活は帰宅部でクラス委員をしてるらしい。

ユートはかなり話しやすく、また明日の朝も会うことになった。

7:25に屋上。

明日の朝が待ち遠しい。

今夜は切らなくて良さそうだな・・・。

「エレナ・・・？何ばーっとしてんの？」

前の席の仁美に声をかけられて驚く。

「うっん。何でも無いよ。」

「そーなの??まあいいけどさ。」

「気にしないで。そーいえば仁美、今度大会あるんでしょー?」

「おー。あるよ」

「応援に行くからねー」

クラスメートとはこんなくだらない会話ばかりしてる。
正直つまんない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4493d/>

リスカ少女

2010年10月28日05時46分発行